

2016 年度 学校自己評価報告書(法政大学第二中・高等学校)

教育理念・目標	<p>教育理念:本校における教育は、人格の完成をめざして国民的共通教養の基礎を築き、平和で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目的とする。</p> <p>教育目標①:人類および民族のあらゆる分野における歴史的・文化的遺産を体系的に学び取り、自然と社会・人間に対する認識を深める。</p> <p>教育目標②:獲得した認識を総合し、自然との共生・諸民族の共同など、人類社会のもつ諸課題と向き合う視野を培う。</p> <p>教育目標③:学ぶことの意味と喜びを知り、常に学問的好奇心を発揮し、生涯にわたって成長を遂げることのできる土台を獲得する。</p> <p>教育目標④:自己を客観視し、社会の中でどのように生きるかを考える能力をつける。</p> <p>教育目標⑤:自己の諸課題の解決・現状の変革を担おうとする自主的精神と互いを尊重し共同での取り組みができる自治的能力を獲得する。</p> <p>教育目標⑥:高い品性と社会性を身につけ、不正・腐敗を許さず、社会正義を確立する自立の力を獲得する。</p>
重点目標	<p>1、2016年度の男女共学化開始に伴い、新たに表出する課題に対して対応する。</p> <p>2、新校舎の使用開始に伴い、表出する具体的課題を解決する。</p> <p>3、教育目標を達成するために生徒一人一人に高い学力をつけさせるための具体的実践の研究をする。</p> <p>4、中高6ヶ年を視野に入れた生徒の自主活動を伸ばすための工夫をする。</p> <p>5、法政大学・育友会(PTA)・同窓会・地域との連携を強化する。</p>

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2017年6月17日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	<p>法政大学の付属校として学園の一翼を担う自覚を入学当初から意識化させるために、中学1年生の「校外授業」、高校1年生「新入生合宿」など行事や、中学校1年社会科の授業を通じて、本校の建学の理念「自由」と「進歩」について大学史や二中高史の独自プリントを使用して学習する。また大学との連携のなかで、高校1年生時に開催される「ウエルカム・フェスタ」を1つの動機付けとし、進路意識開拓にもつなげる。今年度もこれらの取り組みを行い、生徒による法政大学の建学の精神の理解につとめた。</p>				<p>建学の精神の理解と共に進路意識、特に目標設定(人としての成長目標)の醸成も期待する。</p>
2	組織運営	<p>全教員による組織的取り組みにもとづき、教育方針を定め、これにもとづいて実践を進め、振り返りを行う。そのため年度末に1年間の教育活動の総括を行い、導き出された教訓を次年度に向けて方針化し、教育実践を進めていくことは組織運営の根幹であると考えている。本年度においても予定通り、教員会議を通じて方針を定め、中間点検で実践の到達状況を確認し、年度末に総括を行うことができた。</p> <p>二期工事完成にともなう新図書館の運営については、本校教育の核とすべく、図書館運営委員会を中心としてその任に当たった。次年度はその位置付けをさらに強めるべく、図書館学習推進委員会として活動を進めていく。</p>				<p>育友会理事会における学事報告や父母会における教育実践のフィードバックは貴重なもので、今後とも継続してほしい。</p>
3	教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	<p>教科教育においては、学校改革の一環として、「教科教育における6カ年体系化」の中長期計画に基づき、中1・高1の新カリキュラムを施行した。学習内容はもちろん、学習方法についても活動型の学習を大きく位置づけ、他者と協働しながら思考力・表現力を培う実践を行った。その他の学年においても、学力向上に資するカリキュラムの再構築と実践を展開した。学力の到達状況に応じて特別指導や課題設定などの学習支援を継続した。こうした取り組みを通して多くの生徒を法政大学推薦に値する学力へ到達させることに努めた結果、各教科目の学力到達度、および法政大学への推薦率について前年度の水準を維持することができた。来年度は、学校コンセプトである「調べ、討論し、発表する」教科活動のいっそうの充実に向け、ICT機器および学習情報センターとしての図書館を活用した教科活動の推進を図る。</p> <p>生活指導においては、本年度は共学化初年度であり、「学校生活に関するアンケート」を実施するなど、共学化した学年(中1・高1)を中心に「新しい学校」としての生徒実態の把握に努めた。「中・高6カ年の生活指導の体系化」をはじめ、生徒の学校生活の様々なルールを明確化して、生徒への周知徹底に努めた。「クラブ再構築」をもとにした、女子生徒を含めた共学化でのクラブ活動も開始し、改善課題の把握と環境整備に重点を置いた。</p> <p>新入生(中1、高1)については例年と同様に多様化する生徒実態に対し、校外授業(中1)や新入生合宿(高1)を通じて、個別的な生徒実態把握に努め、他学年については前年度の学年との連携の中で個別的把握を行い、それ以降の指導の手立てに反映させた。</p>				<p>クラブ活動は指導者の拡充と先生の負担軽減が必要に感じる。</p> <p>ただし、先生の指導がしっかりしているクラブの成績が良いこともあり、学校の施策の中で、役割の明確化が求められると感じる。</p>

		<p>また、保健室やカウンセリングルームと連携して、より詳細な恒常の実態把握と、きめ細かな指導を展開した。</p> <p>生徒の自主的活動においては、HRでの組織討議を中心に、体育祭や二高祭といった行事をはじめとした自主的取り組みが行われていく中で自治意識と民主的運営能力の基礎の確立に努めた。</p> <p>クラブ活動においては健康・安全に関する観点を最重要視した。そのうえで、民主的運営と計画的活動を重視し、運動部については科学的トレーニングの実践を、文化部については学術的側面についても視野に入れ、より質の高い活動を展開し、多くのクラブが高い成果を上げた。共学初年度にあたり、女子部員の活動のあり方についても検討し、まだ一学年しかないなかでの集団づくり、活動づくりを進めた。</p>	
	<p>安全・保健管理 (保健、安全、防災、 施設等)</p>	<p>定期健康診断・体力測定(スポーツテスト)を実施した。その結果と分析を返すことで生徒は自分の体力や健康状態を知ることとなり、さらには健康への認識を深めるようになった。AEDは学校内に8カ所設置しており、どこに設置されているかを理解させる取り組みを行っている。夏休み前には教職員対象及び生徒対象(各部の代表者)の安全講習会を実施し、救命救急について学んでいる。さらに授業でも心肺蘇生法や救急法について学んでいる。また近年増加しつつある多方面の問題に対処しなければならない生徒、保護者のためにカウンセリングルームを充実させ、必要な連携が取れる体制を作っている。今年度4月より障害者差別解消法が施行されたことに伴い、「合理的配慮」の理解を進め、その対応を進めた。</p> <p>避難訓練は特別防災訓練も合わせ計3回実施し、避難場所と避難経路の確認を行った。新校舎建築工事(グラウンド整備)のなかでの避難訓練であったが、訓練を繰り返すことで整然と訓練が実施できている。次年度には校舎が竣工する。早期に適切な避難経路と場所について検討し、すみやかに避難訓練を実施することとする。</p>	<p>よい取り組みとして、評価できる。</p>
5	<p>連携 (保護者、卒業生、 地域等)</p>	<p>保護者との連携では、育友会(PTA)との連携を基礎に、育友会理事会の円滑な運営に寄与した。中学高校と別組織だった育友会が統一された初年度であったが、一つ一つ確認をするなかで、大きな混乱が生じることなく連携を図ることができた。また、「育友会集中ミーティング」において、昨年度同様に学校と保護者の意見交換が成された。また、定期的に育友OB会、白塔会(中学保護者OB会)との連携も行った。日常的な保護者連携としては、各学期に開催される保護者会やクラブ保護者会を軸に、クラス担任、養護教諭、カウンセラーを中心に、各学年がチームとなって生徒個々の実態把握と対応を行った。</p> <p>卒業生との連携では、同窓会を中心に行った。また監督コーチ懇談会(日常の部活指導におけるOBとの連携)を例年通り開催し、クラブ指導の方針について共有につとめた。進路指導においては、その一環としてOB講演会を実施した。</p> <p>地域等との連携では、「地域に愛される法政二中高」をめざし、地域の方々からお寄せいただく各種ご意見への対応につとめた。さらに学期末ごとに生徒が行う地域清掃ボランティア(各部の部員が中心となって取り組む)、吹奏楽部による地域のお祭りへの参加、教員による年5回の登下校路上指導を行った。また二中文化祭・二高祭に於いては、地域の商店街と話し合いを持ち、期間中5店舗に出店していただいた。木月ホール完成記念式典として、本校吹奏楽部、大学オーケストラによるコンサートを地域にもひらき、文化の発信にもつとめた。</p>	<p>保護者、卒業生、地域の連携は具体的な取り組みがあり、成果があがっている。</p> <p>今後は保護者の裾野を広げるような取り組みが必要と感じる。</p>
6	<p>大学との連携</p>	<p>法政大学と三付属校とが協同して取り組んだ「ウエルカム・フェスタ」は、今年度で4回目となり、市ヶ谷キャンパス、外濠校舎で開催された。三付属校の高校1年生全員を対象に、薩埵ホールで「法政大学」の自校教育、大学での「学び」についての概論を全体会として行い、その後、5会場に分かれ学生・大学院生による具体的な「学びのモデル」の紹介を行った。取り組みの全体を通じて、これから3年間を過ごす、高校での「学び」の位置づけについて考えさせることをねらいとした。また、今年度も同時開催した保護者向けプログラムでは、薩埵ホールでの全体会の様子を遠隔システムで視聴していただいた後、大学生を巡る就職状況、高校生から大学生そして社会人へと成長していく子と親との関係についての講演が行われ、好評だった。</p> <p>夏休み期間に開催された「One-Day Science College in Koganei Campus」は、今年度で2回目となった。小金井キャンパスにある理工学部、情報科学部、生命科学部の3つの学部が高校生に向けて最先端の研究・技術を体験してもらう企画として、理系分野に興味関心の高い生徒が参加した。今年度は高校1年生～3年生の26名が参加したが、大変充実した取り組みとなった。また、今年度は初めての取り組みとして、イングリッシュ・キャンプが夏休み期間中2泊3日で多摩キャンパスにて行われ、参加者は英語による合宿を体験することができた。</p> <p>高校2年生は7月に、3年生は6月に各学部より大学教員を招いて進路講演会をそれぞれの成長過程に合わせて開催してきている。3年生では大学各キャンパスでのゼミ見学会も7月に行われ、生徒の進路選択の機会の一つとなっている。今年度は高校1年生の初めての取り組みとして、社会人進路講演会を実施し、キャリアについて考える契機とした。「3年3学期プログラム」の取り組みでは、学部毎のクラスに分かれての「テーマ研究」を行っている。課題文献の紹介や研究テーマについての大学教員、大学院生からの助言指導と各学部での入学前教育(ガイダンス)などで大学の援助を受けている。また、総長杯英語プレゼンテーション大会が初めて実施され、3チームが参加し、1チームが優秀賞を受賞した。</p> <p>今後、さらに取り組みを通じて高大教員の交流、協同の広がる可能性がある。</p>	<p>法政大学の進学者が9割近くにのぼり、二中高生のほとんどが法政大学を志望しているため、結果が出ている。</p> <p>高大教育の交流や相互の補完には大いに期待する。</p>

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2017年6月17日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	新校舎グラウンド・外構整備	<p>新校舎・キャンパス完成に向けた第Ⅱ期工事のうち、残るグラウンド・外構整備については、2017年3月に無事竣工を迎えた。校内動線の随時変更をはじめとする様々な対応が求められてきたが、法人内の関係組織・関連業者の協力・連携により、無事故かつ生徒・教職員の安全・安心な学校生活を第一とした対応を完遂することができた。あわせて新校舎・キャンパス完成にともなう記念式典・記念行事についても、盛大に行うことができた。</p>				<p>インフラの整備は学校の魅力を高める上で、大きな効果があった。</p>
2	入試広報	<p>2016年度は共学募集2年目の活動となり、本校が積み上げてきた歴史を踏襲しつつ、全校あげて推し進める「新しい学校づくり」を見据えた入試広報活動に取り組んだ。広報活動については、まずイベントや入試におけるアンケートを分析し、認知してもらうための施策、興味をもってもらうための施策、理解し志望してもらうための施策というように、受験生側の出願までの学校選択行動の流れの中でどこが課題なのかを明確にし、施策を考え実行した。本校を知る重要な媒体である『学校案内』の作成にあたっては、視覚的インパクトを重視したものにし、5月・6月に進学塾・公立中学校等に送付した。また外部での各種説明会(塾・中学校・海外日本人学校・私立中高協会主催など)には積極的に参加し、二中高教育の本質や入試制度についての正確な理解を促すなど、これまで以上に丁寧な活動を心掛けた。HPについては共学化1年目の様子をリアルタイムに伝え、「新しい学校」のイメージを持ってもらえるよう情報発信に取り組んだ。今後は最新の情報を提供するのとは勿論のこと、特に日常の生徒の様子を随時発信する枠組みを構築し取り組みたい。また学校説明会においては各回において時期に応じたコンセプトを設定し、受験生・保護者に本校の教育内容に共感を持ってもらえるよう工夫した。今後はソフト面でのより具体的な実践をアピールできるよう、積極的に入試広報活動を展開していきたい。</p>				<p>共学化は少子高齢化の中で、多くの中高が取り組んでいる。その中で法政二中高の特色を出していくことを希望する。</p>
3	新制服の制定	<p>新制服の着用がスタートし、身だしなみについての指導を展開した。今年度は、女子のオプションサマースカートの導入について議論した。2018年度導入に向けて、次年度早期に決定していく。</p>				<p>正しい制服の着こなし、節度あるマナーの指導を強化してほしい</p>
4	2016年度学校構想(国際交流の推進)	<p>国際交流の推進に向け、諸活動を進めた。姉妹校オレワ・カレッジとの交流は、本年度からの長期留学制度の開始へと発展した。同じく本年度より、本校独自のカナダ研修も開始となった。また新学校構想にもとづき、学内での国際交流の基盤となる、生徒組織と連携した国際交流委員会の活動も開始した。その中で本年度は、イギリスのクライスト・カレッジ・ブレコン校(CCB)のラグビー一部との国際親善試合、スウェーデンのミカエル・エリアス高校とのskype交流を行った。</p> <p>一方高大連携の観点から、法政大学台湾教育センターとの連携が進み、本年度は瀛海(インハイ)高級中學受け入れを実施した。歓迎行事や授業体験など、学内関係諸組織と連携しながら行うことができた。</p> <p>次年度も学内諸組織との連携をさらに深めつつ、活動を継続していく。</p>				<p>単位を相互に認めるなど、留学に対する・生徒両親に対する精神的敷居を下げ、多くの生徒が留学した事は大いに評価する。</p>